

‘よさ恋美人’の収穫時期早進化技術

表 移植日、苗の葉齢と生育ステージ、収量および品質(2018年)

試験区		移植時 葉齢	出穂期	同差 (日)	成熟期	同差 (日)	倒伏 程度 (0-5)	精玄米重 (kg/10a)	収量比 (%)	玄米タンパク (%)	整粒粒比 (%)
移植日	苗の 種類										
3/27	中苗	2.8	6/17	-7	7/20	-10	0	450	68	7.20	78.8
	稚苗	2.0	6/20	-4	7/21	-9	0	455	69	7.04	88.9
4/5	中苗	3.0	6/23	-1	7/26	-4	0	575	87	7.30	85.8
	稚苗	2.0	6/24	(0)	7/30	(0)	4	660	(100)	8.33	75.4

注) 窒素施肥量は成分で7kg/10a (LP早稲1番を全量全層施用)。栽植密度は18.5株/m²(60株/坪)、4本/株で移植。
倒伏程度は成熟期において、0(無)～5(甚)の6段階で評価。収量比は4/5移植稚苗区を100とした比率。
玄米タンパクは近赤外分析計(NIRFlex N-500)で、整粒粒比は穀粒判別機(RGQ110A)で測定した値。
なお、4/5移植稚苗区では他区に比べ耕土がやや深くなっていたため、収量が多く、高タンパクで倒伏程度が大きかった。

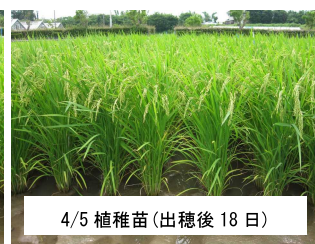
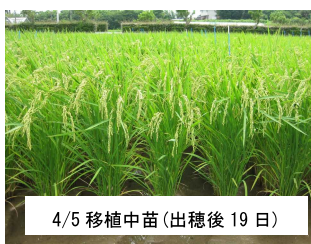
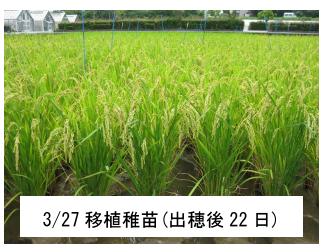
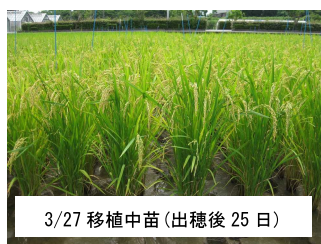


写真 登熟期の様子 (7/12 撮影)

‘よさ恋美人’は食味・収量性に優れ、夏期高温下でも白未熟粒の発生が少ない水稲極早生品種で、平成29年には奨励品種として採用され、平成30年に本格栽培が始まりました。今後、‘よさ恋美人’のブランド化を図り、県外での有利販売をすすめるには、‘コシヒカリ’との差別化が必要となることから、収穫期の早進化技術が求められています。

そこで、葉齢の異なる苗(稚苗・中苗)を、3/27、4/5に移植し、移植時期と苗の違いが、収穫時期(成熟期)、収量および品質に及ぼす影響を検討しました。

その結果、移植時期については、同じ種類の苗で比較した場合、慣行の4/5移植区より9日早く移植した3/27移植区では、出穂期が4～6日、成熟期は6～9日早まりました(表)。

また、苗については、同じ日に移植した場合、中苗が稚苗よりも出穂期が1～3日、成熟期が1～4日早まることが認められました。

さらに、中苗を3/27に移植すると、慣行の稚苗を4/5に移植した場合に比べ、出穂期が7日、成熟期が10日早まり、7/20頃に収穫できることがわかりました。

一方、収量についてみると、3/27移植区は4/5移植区と比べ、苗質にかかわらず、穂数の減少に伴い収量が減少する傾向がみられました。

今後は3月移植による減収要因を明らかにし、多収生産技術について検討する予定です。

(水田作物担当 伊東美紀子 088-863-4916)

高知県農業技術センターニュース 第94号 平成31年1月1日

編集発行 高知県農業技術センター 所長 石本 周平

農業技術センター

〒783-0023

高知県南国市廿枝 1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2012>

果樹試験場

〒780-8064

高知市朝倉丁 268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2013>

茶業試験場

〒781-1801

吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2014>